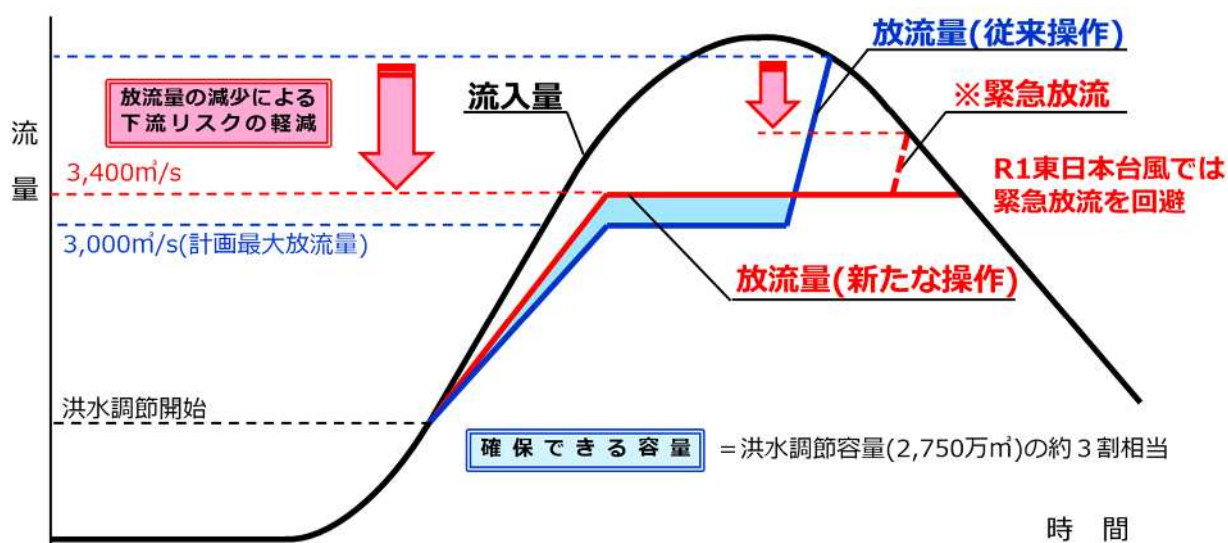


ダムの洪水調節機能の強化

■洪水調節に係るダム操作方法の見直し

計画規模を超える降雨が予測される場合、次の操作を行うことにより、ダムの水位上昇を抑制し、洪水調節容量を確保する。

- ・洪水調節開始後の放流量について、流入量を超えない範囲でゲートの放流能力の限度量まで引き上げ
- ・令和元年東日本台風の放流実績を基に、下流に危険を及ぼさない最大放流量を従来の $3,000 \text{ m}^3/\text{s}$ から $3,400 \text{ m}^3/\text{s}$ に引き上げ



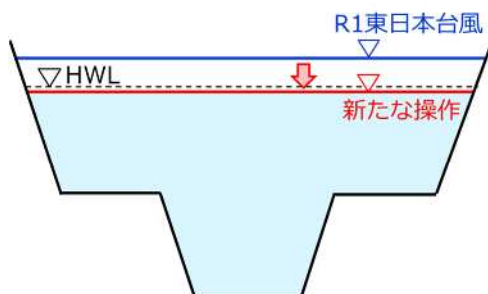
※令和元年東日本台風を超える洪水では、**新たな操作**でも緊急放流を回避することは困難ですが**従来の操作**よりも**最大放流量は減少**します。

■見直しの効果

ダム操作方法の見直し等により、令和元年東日本台風と同じ降雨に対しては、城山ダムの洪水調節容量 ($2,750 \text{ 万 m}^3$) を約3割増加させる効果が見込まれる。

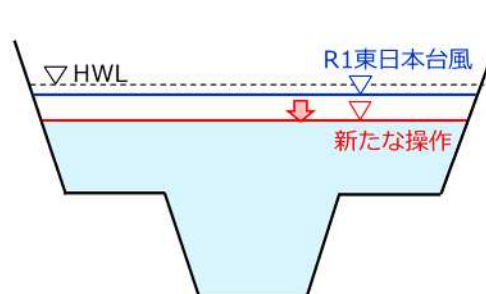
その結果、緊急放流を回避できるとともに、最も水位が上昇した磯部頭首工付近の水位が約65 cm低下するなどの効果が期待できる。

<磯部頭首工付近>



水位低下量：65 cm

<相模大橋地点>



水位低下量：38 cm

■今後の予定

今後、ゲートの開度など具体的な操作方法の詳細を詰め、必要な操作要領等を改正したうえで、本格的な台風シーズン（9月）までに運用を開始する。